

まちづくりキャッチフレーズ **人と自然と文化がつくる「キラリと光る新中核都市」**



## ～青少年の森・市民交流の森除草作業～ 美しく豊かな里山を目指して

5月16日(土)、小田山(小田)で、除草作業が行われました。

これは、上北条地区振興協議会「青少年の森」整備事業実行委員会と倉吉市が協働し、以前の「青少年の森・市民交流の森」計画地を新たに「青少年・市民の森～実のなる樹木広場」として年次的に整備し、保全と活用を行おうとするものです。

この日は、市民ボランティアも含め約50人が集結。休耕畑でミカンの木に絡まる雑草やツルを、カマやノコギリで取り除く作業を行いました。ツルはしつかりと絡まり、大人の男性5人が引っ張っても力負けして、尻もちをつく姿も見られました。

作業終了後には、近辺で採取した山菜を天ぷらにし、ビワの葉やミカンの花など、珍しい食材に全員が舌鼓を打ちました。

### C O N T E N T S

- あなたの命はみんなで守る  
6月は土砂災害防止月間 …………… 2～5
- インフォメーション・プラス …………… 6～10
- ハート・バリアフリー …………… 11
- インフォメーション …………… 12～16
- レッツ！介護予防 …………… 17
- あんしんファイル …………… 18～19
- 出かけてみよう …………… 20～21
- まちかどピンナップ …………… 22
- 遙かな町へ/シナプロ韓国 …………… 23
- 若者の定住に向けて/人口 …………… 24



あなたの命は、みんなを守る――

6月は土砂災害防止月間です。



5月17日(日)、「灘手地区で洪水および土砂災害が発生する可能性が相次いで高まったため、住民に避難勧告発令」この日、平成21年度鳥取県水防訓練が、天神川河川敷(東巖城町)で行われました。これに併せ、倉吉市も独自に灘手地区で、洪水と土砂災害の避難訓練を行いました。

灘手小学校体育館に現地対策本部(本部長・増井壽雄副市長)と避難所が設置され、尾原地区住民53人をはじめ、約120人が参加しました。皆さんが、本番さながらにお互いに声を掛け合い、助け合いながら、スムーズに避難を行いました。また、この訓練は、参加者全員が「いざというとき、どのように行動すればよいのか」を再確認する機会になりました。これから本格的な梅雨、台風の時期を迎えます。災害から生命と財産を守るため、もう一度、個人の備え、家族の備え、地域の備えを確認しましょう。

## 強風・大雨に備えて

**強風・大雨のときに屋外に出るのは大変危険です。** テレビ・ラジオなどの気象情報に注意し、早めに対策をとりましょう。

- 屋外を点検し、風で飛ばされそうな物はしっかりと固定する。
- 大雨のおそれがあるときは、排水口などに溜まっている泥、ゴミなどを取り除いておく。
- 雨戸を閉め、窓ガラスに飛散防止用のテープを貼る。
- 家の周りにがけ崩れなどの危険な場所がないか確認しておく。

### 【土砂災害の前兆現象】

#### ■ がけ崩れ

- ・ 小石がばらばらと落ちてくる。
- ・ 地面にひび割れができる。
- ・ 普段出ている湧水の量が増加したり、濁ったりしてくる。

#### ■ 地すべり

- ・ 地面にひび割れができる。
- ・ 樹木が傾いたり、倒れたりする。

### ■ 土石流

- ・ 山鳴りがする。
- ・ 大雨で普段よりも増水していた川の水位が下がる。
- ・ 川の水が濁り、上流から木などが流れてくる。
- ・ 火薬のような臭いがする。

## 災害に備えて

災害が発生したとき、必ずしも家族が一緒にいるとは限りません。ひとりで混乱しないため、普段から家族で「災害時にどうすればよいか」を話し合っておくことが必要です。

また、公民館単位で自主防災組織を結成し、定期的に防災訓練・防災研修会を開催しましょう。

- 地震・洪水ハザードマップなどで避難場所を確認し、安全な避難ルートを確認しておく。
- リュックなどの背負い式バッグに非常時の持ち出し品を準備しておく。

### 【持ち出し品の例】

- ・ 食料、飲料水(3日分)
- ・ 救急用品
- ・ 携帯ラジオ、懐中電灯
- ・ 衣類、マスク、タオル、ティッシュ、オムツ、靴などの生活用品
- ・ 現金、通帳、免許証、健康保険証のコピー
- ・ 家族の状態に応じた物品(粉ミルク、処方せんなど)

## 避難時の心がけ

避難するときは、火の元、戸締まりなどを確認し、隣近所で

声を掛け合って避難しましょう。特に、高齢者・障がい者・子どもなどに配慮し、地域住民が助け合って避難しましょう。

## 安否確認

災害時に家族や知人の安否を確認する手段として、「災害用伝言ダイヤル『177』や『110』や『119』」などを覚えておき、いざというときに活用しましょう。

※問合せ先…総務課(☎221-8162/☎2211087)



▲田中 勝さん(尾原)  
倉吉市社会福祉協議会が歳末たすけあい募金により独り暮らしの高齢者などに配布した非常持ち出し袋を持って避難。袋の中には懐中電灯や軍手、非常食などが入っていました。「いつも、すぐに持ち出すことができる場所に置いている」とのこと。定期的に、懐中電灯の電池交換などのチェックもされているそう。

# 頼りになるエキスパートたち。

災害による被害を防ぐためには、自分のことは自分で守る「自助」が基本になります。

しかし、災害の規模や数が大きくなったとき、日ごろから災害に備えて専門的な知識や訓練を行っている人たちが、現地に赴き、陣頭に立って対処を行います。

## 現地対策本部(市役所)



### 講評

増井壽雄副市長  
(現地対策本部長)

今回、灘手地区の皆さんの発案による自衛消防団の訓練をはじめ、消防の救助訓練、警察・消防団の避難誘導など、非常に迅速で緊張感にあふれた訓練でした。災害は、いつやってくるか分かりません。昨年5月の中国四川省の大地震や6月の岩手・宮城内陸地震も記憶に新しいところです。いざというときに備え、このように訓練を重ね、一人ひとりが災害に対する防災意識を高めることが何より大切です。

(右上)総務班。被災状況の把握、関係機関との連携・連絡調整などの指令塔。

(右中)医療防疫班による医療救護所。多数の傷病者が発生し、医療機関が混乱した場合に、被災者の迅速な救護を行います。

(右下)マイクロバスも出勤。安全・迅速に住民の避難を進めます。

## 倉吉警察署



避難誘導と安全確保には倉吉警察署が出動。訓練で緊張する子どもも、顔見知りのお巡りさんを見つけると、自然に笑顔が。

## 中部消防局(救急隊)



医療救護所から医療機関への搬送のため出勤。負傷者の状況確認から心臓マッサージなどの救命措置と、その手際の良さには感嘆の声も。

## 児童・民生委員

いざというときに、大きな被害を受けやすいのは、高齢者や障がい者、乳幼児などの人々(災害時要援護者)です。地区の児童・民生委員は、消防団や福祉協力員と協力し、独り暮らしの高齢者などの安否確認を行います。



▲児童・民生委員の非常持出袋。軍手や医薬品のほかにも分厚いファイルが入っています。「独り暮らしのお年寄りなど、いざというときに、安否確認や援護が必要な人の名簿や家の地図がファイルされています」

▼避難終了後も災害時要援護者への安否確認の結果などを報告、確認しあう。

「灘手地区は、地域が小さい分、日ごろからコミュニケーションがとれ、災害時の連絡体制がしっかりしている」(石田千恵子地区会長)



## ～防災、防犯情報～

# 倉吉メール配信システムをご活用ください

メール配信システムとは、登録された皆さんに電子メールで防災、防犯など10分野の情報を配信するサービスです。

登録用アドレス: [kurayoshi@xpressmail.jp](mailto:kurayoshi@xpressmail.jp)

### ◎登録方法

1. 上記アドレス宛に件名・本文を入力しないメール(空メール)を送信してください。
2. 登録用メールが返信されますので、メールに記載された「■登録・変更方法」のURLを選択し接続してください。
3. 表示される登録画面で、ご希望の情報(複数選択可)、地区を選択して「確認」ボタンを押してください。
4. 確認画面が表示されますので、内容を確認して「登録」ボタンを押してください。
5. 登録完了画面が表示されます。これで登録完了です。

携帯で読み取るとアドレスが表示されます↓



メールを送信しても返信がない場合は、次のことを確認して再度送信してください。

- ・登録用メールアドレスが間違っていないか。
- ・迷惑メール対策で「@xpressmail.jp」からのメールを受信しないよう設定していないか。
- ・URLつきメールの受信を拒否していないか。
- ・新着メールの問合せを実施する。

### ○注意事項

- ・収集したメールアドレスにつきましては、本メール配信以外の用途には利用しません。
- ・本サービスの利用は無料ですが、通信費は利用者負担となります。
- ・本サービスから送信したメールがエラーとなって戻ってきた場合は、利用の解除手続をとらせていただく場合があります。
- ・配信されるメールへの返信は受け付けていません。

※問合せ先：総合政策室(TEL 22-8161 / FAX 22-8144)



## 鳥取県水防訓練

関係機関が参加して、情報伝達訓練、水防工法訓練、避難訓練、人命救助訓練、炊飯訓練などが行われました。



▲土砂埋没救助訓練



▲孤立者救助訓練

▲架柱橋架設訓練

▲大型土のう積工訓練